

令和5年度 学校評価 自己評価書（中間）

1 学校の重点目標

○ 人権尊重の精神の涵養と自己肯定感の育成
○ 確かな学力の習得と非認知能力の育成
○ 健康的なライフスタイルの確立（基本的生活習慣の確立と自主的な体力づくりの推奨など）
○ 家庭・地域との連携・協働の推進

2 課題と改善策

※下記の（ ）内の数値は、保護者評価

	評価項目	職員	評価結果と改善方策
つよい体	1 適宜指導し、子供たちは安全に気を付けて登下校している。	3.3 (3.7)	・1学期間、大きな事故や事件などなく、安全に過ごすことができた
	2 適宜指導し、子供たちはルールやマナーを守った学校生活をしている。	3.1 (3.5)	・「よい子のきまり」をもとに指導を行ってきた。廊下歩行が課題。重点的な指導を行う。
	3 朝や体育の学習を中心に、子供たちはめあてをもって体力づくりやチャレンジがごしまに取り組んでいる。	2.8 (3.4)	・1学期に大きな体育的行事がなく、目標設定が難しかったことや梅雨や熱中症の関係で思うように実践できなかった。次学期は、カードの活用を図り、意欲的に取り組ませたい。
やさしい心	1 具体的な指導をとおして、子供たちは明るく気持ちのいいワンストップあいさつ(校内で会釈)をしている。	3.2 (3.4)	・本校の一校一改善として、正門でのあいさつ運動などを継続して取り組むことができた。徐々に1年生にも浸透させていきたい。
	2 子供たちは、聞こえる声で返事や応答をしている。	3.0 (3.8)	・マスク着用による弊害か口の動きが小さく、はっきりと聞こえないことも多かった。
	3 プラスの言葉やほめ言葉シャワーを伝える場の設定により、子供たちは互いを認め助け合っている。	3.3 (3.4)	・人権意識をもち、言葉遣いの指導を行った。学活でもぜひエンカウンターを取り入れましょうと管理職も呼びかけ、実践した。
	4 学校図書館を積極的に利用するなど、子供たちは進んで本を読んでいる。	3.4 (3.3)	・年間目標を設定し、学年に応じた必読書を設定。読書旬間も実施した。
よく考える	1 ペア・グループ等を活用し、子供たちは分からないことを友達に質問したり話し合ったりしながら理解を深めている。	3.5 (2.6)	・授業中、多く取り入れることができた。特に早く終わった児童に役割を与えた。今後は全員に理由や根拠を加えた意見をもたせたい。
	2 学力タイムや家庭学習等で、子供たちは基礎的基本的事項の定着等に努めている。	3.4 (3.1)	・NRTなどの学力分析から課題となっていることを重点的に補充していきたい。
	3 聞き合う態度を身に付けさせることで、子供たちは友達のささやき・つぶやき・説明等をよく聞いている。	2.9 (3.2)	・1学期、自分の意見を述べられる児童の中にも他者の意見に耳を傾けず受け入れない児童も観られた。それぞれに価値付けを行う。
	4 授業と連動した家庭学習を出すことで、子供たちは進んで家庭学習に取り組んでいる。	3.4 (3.3)	・宿題プリントの活用を図ることができた。今後はそれらの見届けから、個別の指導も行っていきたい。
	5 具体的な取り組みをとおして、子供たちは学習用具等の忘れものに気を付けている。	3.2 (3.2)	・帰りの会の呼びかけのみでは、不足している様子もあった。具体策を共有し、実践する。
がんばりぬく	1 具体的指導により、子供たちは係や委員会の仕事に進んで取り組んでいる。	3.4 (2.6)	・朝の活動に多く設定されていた。概ね自分の役割を果たすことができていた。
	2 教児同行により、子供たちは掃除などを最後までやり遂げている。	3.6 (2.9)	・朝からの掃除を気持ちよく行うことができた。6年生ボランティア活動も立派だった。
	3 子供たちは、個人や学級のめあてをもち、実現に向けて行動している。	3.0 (3.0)	・学年当初に立てためあてへの意識が薄れていた。月初めなどに想起させたい。
その他	1 子供たち一人一人の話をよく聞き、ほめ言葉などの声かけをしている。	3.5 (3.5)	・肯定的な声かけを行うことができた。アンケート調査からこまめに聞き取りを行った。
	2 業務改善   Action I t r y を意識し、効率の良い仕事を心がけている。	2.9 (3.5)	・職員への言葉の意味の浸透が不十分。学期初めに確認し、同僚性も活用し遵守したい。

3 次学期に向けての取組

- 体育的行事等の大きな行事を学級経営の具現化や自己実現のよい機会とするために、学級や個人の目標を設定及び共有し、それに向けた具体策の策定や努力を継続できるよう呼びかけ・称賛を行う。
- 本校の教育目標である人権尊重の精神や自己肯定感を育むために、アンケートの実施や機会を捉えた指導、個に寄り添う姿勢を身に付け、学校を安心・安全で居心地のよい場とする。
- ◎ 授業アンケートの結果分析から1つの重点目標と2つの努力目標を念頭に授業改善を行う。加えて、低・中・高学年部でまとめた共通実践事項を遂行する。
- 自分なりの目標設定を行い、その実現に向けた努力を継続させ、一人一人に伸びを感じさせる。